

いつ しき なが はた
一 色 長 畑 遺 跡

調査の概要

跡ノ口遺跡の東方約500mにあり、付近には島畑が点在し、本遺跡も島畑下に存在する。遺跡の標高は約2mを測る。

調査は県道馬飼井堀線建設に伴う事前調査として平成3年6月から7月にかけて実施された。

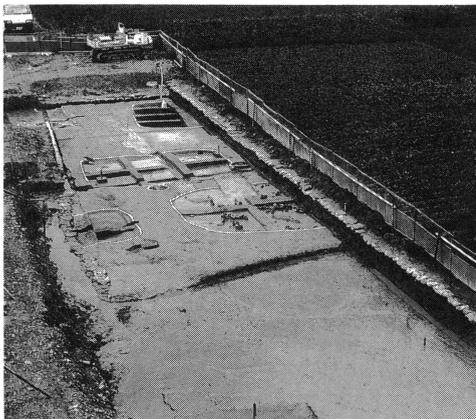
調査区はA・Bの二つで、遺構・遺物はおもにA区で検出され、B区は水田造成による削平によって無遺構であった。

遺構・遺物は弥生時代中期末のほぼ一時期に限定され、竪穴住居跡5、土坑数基が検出された。調査区の約5分の1は水田造成によって削平されていた。

竪穴住居跡5棟のうち1棟は焼失家屋のようで、床面上には甕を主体とする土器群が炭化物・焼土とともに散乱していた。また、本住居跡東端の周壁際からは細片となって散らばった磨製石斧（伐採斧）片とチャートの石核などが集中して出土した。

稲沢市周辺は尾張平野の低地帯として沖積作用を強く受けたであろうことが想像できるけれども、今回島畑直下の比較的浅い地点から弥生時代の集落が検出されたことは、島畑の分布、島畑と水田の新旧関係の検討を含めて、改めて遺跡の分布を問う時期にきているように思える。

(服部俊之)



調査区全景



遺物出土状態